

“サステナ”で変わる 世界の酪農乳業 ～GDPの取り組みと 日本へのメッセージ



2026/03/02

Jミルク 国際G 木ノ内 俊



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)



Jミルクが活動・連携している 国際酪農組織・国連機関の主な活動領域

国際規格
基準

(規格、衛生、
汚染物質、栄養、
添加物、表示)

国際標準
分析試験法

(分析、規格、
衛生、表示)

栄養、
健康機能性
学術データ

動物福祉
労働・安全
疾病・防疫

持続可能性
GHG対策
環境

酪農生産
市場分析
需給予測

酪農経済
酪農経営
(国際比較)

IDF (国際酪農連盟)

ISO(+AOAC)
(国際標準化機構)

GDP
(Global Dairy Platform)

CODEX
Alimentarius Commission
(国際食品規格委員会)

酪農乳業のイメージを向上

エビデンスの創出と提供

栄養・健康

持続可能性

社会経済的貢献

影響力がある国際組織と連携



「“サステナ”で変わる世界の酪農乳業」



講師 **ドナルド・ムーア** 氏
GDP 専務理事



GLOBAL DAIRY PLATFORM

35 現地参加
65 オンライン参加

申込人数

- 36** 森永乳業株式会社
- 16** 雪印メグミルク株式会社
- 14** 株式会社 明治
- 5** 一般社団法人日本乳業協会
- 13** 生産者団体 **1** 他
- 25** 乳業関連企業 **6** 報道
- 6** 研究機関 行政



「“サステナ”で変わる世界の酪農乳業」

開会挨拶

渡辺専務

日本の状況

木ノ内

ムーア氏 講演 60分

世界の酪農乳業の ファクト (価値情報の発信)

酪農乳業の温室効果ガス排出 とこれまでの対応

酪農先進国 での取り組み (フォンテラ社、アーラ社など)

日本に期待 すること

ディスカッション 40分





改訂版 戦略ビジョンの「7つのマテリアリティ」

日本の酪農乳業の根幹的課題への対応

(1) 日本酪農の生産基盤の維持・強化

日本酪農の生産基盤のこれ以上の脆弱化防止又は強化を目指す

(2) 安全で安心される良質な牛乳乳製品の安定的な提供

安全で、良質な牛乳乳製品の安定的な供給の強化を

(3) 牛乳乳製品の消費拡大

牛乳乳製品の消費拡大とステークホルダーに対する

GHG排出量

農林水産省の測定方法酪農場での調査を準備中

(4) 温室効果ガス排出量の削減

酪農乳業における温室効果ガスの削減を目指す

社会的要求への対応

(5) 労働者の安全と権利の確保

労働者の安全と人権が確保できる(確保していると示すことが

AWポリシーを準備中

(6) アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理

アニマルウェルフェアに配慮した(配慮していると示すことができる)酪農を目指す

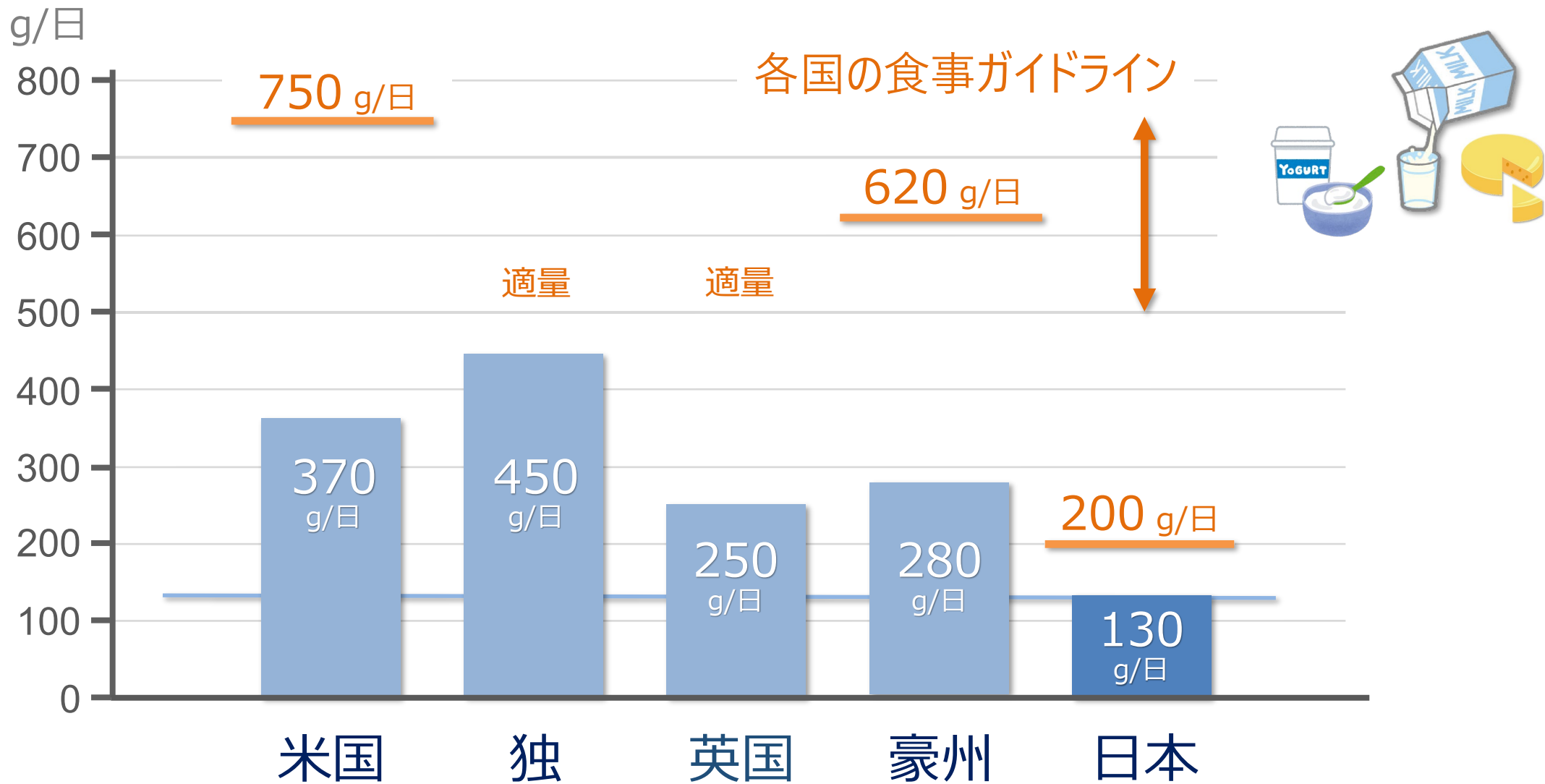
見せる化(魅せる化)

(7) 日本の酪農乳業の意義と持続可能な取り組みの見える化

前述の6つのマテリアリティを中心に取り組みを見える化すると共に、日本の酪農乳業の意義(=存在する価値)の発信の仕方を改変・強化を図る

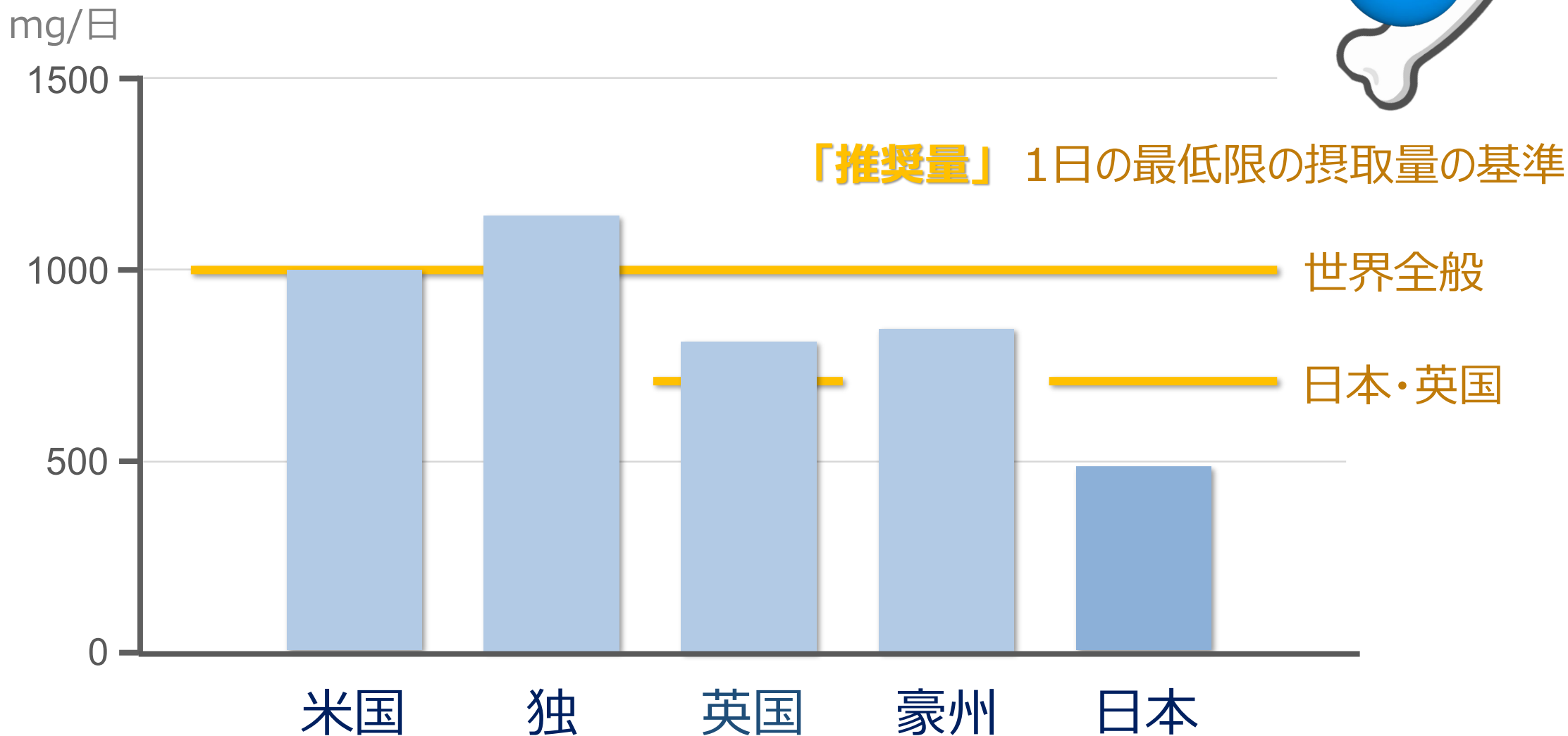


牛乳乳製品の摂取実態 (1日当たり牛乳換算 成人)





カルシウムの摂取実態 (1日あたり成人)





日本の酪農乳業の根幹的課題への対応

(1) 日本酪農の生産基盤の維持・強化

日本酪農の生産基盤のこれ以上の脆弱化防止又は強化を目指す

(2) 安全で安心される良質な牛乳乳製品の安定的な提供

安全で、良質な牛乳乳製品の安定的な供給の強化を目指す

(3) 牛乳乳製品の消費拡大

牛乳乳製品の消費拡大とステークホルダーに対するコミュニケーション強化を図る

社会的要求への対応

(4) 温室効果ガス排出量の削減

酪農乳業における温室効果ガスの削減を目指す

(5) 労働者の安全と権利の確保

労働者の安全と人権が確保できる(確保していると示すことができる)酪農乳業を目指す

(6) アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理

アニマルウェルフェアに配慮した(配慮していると示すことができる)酪農を目指す

見せる化(魅せる化)

(7) 日本の酪農乳業の意義と持続可能な取り組みの見える化

前述の6つのマテリアリティを中心に取り組みを見える化すると共に、日本の酪農乳業の意義(=存在する価値)の発信の仕方を改変・強化を図る



GDP 「世界牛乳の日2025 (6/1)」

Top Countries

- 1. Japan
- 2. India
- 3. United States
- 4. Thailand
- 5. Nigeria
- 6. United Kingdom
- 7. Netherlands
- 8. Colombia
- 9. Canada

#WorldMilkDay #EnjoyDairy



6月1日は牛乳の日・6月は牛乳月間

World Milk Day 6.1 JAPAN

ミルクでつながる ありがとうの輪

牛さんや牛乳・乳製品への「ありがとう」を #ミルクのバトンリレー をつけて投稿しよう!

#ミルクのバトンリレー

Let's Celebrate The Power of Dairy.

#WorldMilkDay #EnjoyDairy

SUNDAY, JUNE 1, 2025



「ファクト一覧」

酪農乳業は健康で持続可能な世界を育んでいます

世界の食糧システムへの酪農乳業の貢献

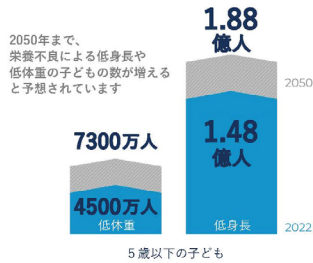


世界の栄養と食糧安全保障には課題があります

世界は栄養を必要としています

世界の人口が2050年までに100億人近くに達すると予想されており、栄養豊富で気候変動に強い食料の必要性が高まっています¹

- 栄養不良は世界中で続いており、健康を脅かすとともに、病気がちで生産活動に携われない人を増やすことで将来の発展を妨げています¹。
- 世界人口の9.1%にあたる7億3300万人が飢餓を経験しており、栄養不足の状態にあります²。
- 栄養不良が人々の身体的および認知的な機能を阻害することで、生産性におけるコスト損失が毎年3兆ドル発生しています³。



United Nations. 2023. The Sustainable Environment Goals Report Special Edition. 88. © Helmut Grottel Foundation. 2024. The quest to Research a Winning World. Goalkeepers Report.

栄養不良に無縁の国はありません

食料が十分あるにもかかわらず複数の微量栄養素が欠乏している「隠れた飢餓」が、世界中でおよそ20億人に影響しています^{4,5}

- 高所得国では「隠れた飢餓」が栄養過剰（いわゆる過体重や肥満）を伴っていることが多く、医療費を増大させ、健康状態を悪化させ、人類の可能性を世界規模で制限する要因となっています。
- 国連食糧農業機関（FAO）は、牛乳乳製品が、決定的に不足している栄養素であるカルシウムとビタミンB12を含むビタミンやミネラルの重要な摂取源であることを認識しています⁶。酪農乳業セクターは、牛乳乳製品へのアクセスと入手性を優先して確保することで、栄養不良の多重負荷を改善し、すべての人々の健康とウェルビーイングを増進するのに役立つことができます。



Pasarelli S, et al. 2024. Global Estimation of Dietary Micronutrient Inadequacies: A Modelling Analysis. The Lancet Global Health.

世界的に高齢化が進んでいます

寿命は延びているものの、健康寿命の延びは小さく、非感染性疾患（NCD）の発生率が上昇しています⁷

- 寿命と健康寿命の差異は、2型糖尿病、認知症、サルコペニア、骨粗鬆症、心血管疾患といった、NCDや加齢に関連する疾患の発生率の上昇と関連しており、ヘルスケアに関する体制・労働力・資金や公衆衛生に関する支出に負担をかけています。高齢者を介護する人が減少しているため、高齢者がより長く生き生きと自立して過ごせるように支援する方策が必要となっています。
- 2050年には、高齢者の80%が低・中所得国に住んでいる状況となり、栄養不良や栄養不足に起因する疾患のリスクを悪化させます⁸。

2050年までに、80歳以上の高齢者の数が3倍になると予測されています



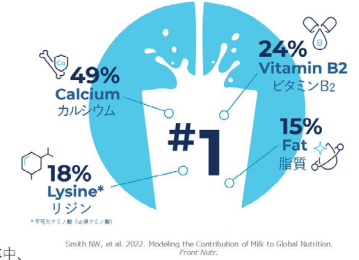
WHO. 2024. Ageing and Health Fact Sheet.

酪農乳業が解決策の一つとなります

牛乳乳製品は、全年齢層にとっての栄養源です

FAOは、栄養と健康を改善するために、多種多様な健康的な食事に牛乳を取り入れることを推奨しています⁹

- エチオピア、インド、ケニア、ナイジェリア、タンザニアの5カ国の酪農の生産性と供給量を改善するだけで、2050年までに1億900万人の小児の発育障害を防ぐことができます³。
- 牛乳乳製品は、栄養密度が高く、カルシウム、ヨウ素、ビタミンB群、質の高いタンパク質など、世界の食事で不足している多くの栄養素を供給しています³。これらの栄養素は、免疫機能、認知機能、健康やウェルビーイングに不可欠のものです³。
- FAOによると、牛乳乳製品の摂取は、成人の死亡（全要因）、高血圧、脳卒中、2型糖尿病、大腸がん、乳がん、肥満、骨粗鬆症のリスクを低下させます⁹。
- 世界保健機関（WHO）は、エネルギー、質の高いタンパク質、微量栄養素の摂取を増やすために高齢者に牛乳乳製品を推奨しています¹⁰。



牛乳乳製品は、手頃な価格で栄養を摂ることができる食品です

牛乳乳製品は、低コストでまとまった量の栄養素を摂ることができます

- 世界人口の29.1%にあたる23億人が、中等度あるいは重度の食料不安の状況に面しており、十分な食料を日常的に入手することができません³。
- 栄養が適切で動物由来の食品を含まない食事は、栄養を補完する牛乳乳製品などの動物由来食品を含む食事よりもコストが35~45%高くなります¹¹。



酪農乳業は持続可能性のある選択肢です

酪農乳業セクターは、「デーリー・サステナビリティ・フレームワーク」や「酪農乳業ネットゼロへの道筋」などの活動を通して「持続可能性」を改善しています

- 世界全体の酪農場の炭素排出強度は、2000~2022年で約24%減少しました¹²。
- 酪農乳業は、牧草、わら、農業副産物といった人が食べられない25億トン分（乾物換算）の飼料を、質の高いタンパク質や数種の栄養素にアップサイクルしています。世界中の反芻動物の家畜が消費する飼料の95%は、人が食べることができないのです¹³。
- 天然肥料となる牛の糞は、土壌の肥沃度を高め、合成肥料への依存を減らし、作物の収量を向上させます¹⁴。



酪農乳業には影響力があります

生乳は、金額では世界最大の、量では第3位の農業生産品です¹⁵

- 世界中で、1億3300万の酪農場があり、6億人が暮らしています。さらに4億人の生活が酪農乳業関係のフルタイムの仕事によって支えられています。
- 約8000万人の女性が酪農場で雇用され、約3700万人の酪農場で活躍しています¹⁵。
- 酪農乳業セクターの発展は、消費者の栄養に優れた食品へのアクセスを向上し、酪農家の収入を増やし、環境への影響を軽減し、政府に税収をもたらし、地域社会の公共事業の改善に充てられるようになります¹⁴。



栄養不良に無縁の国はない



世界中で

およそ**20億人**

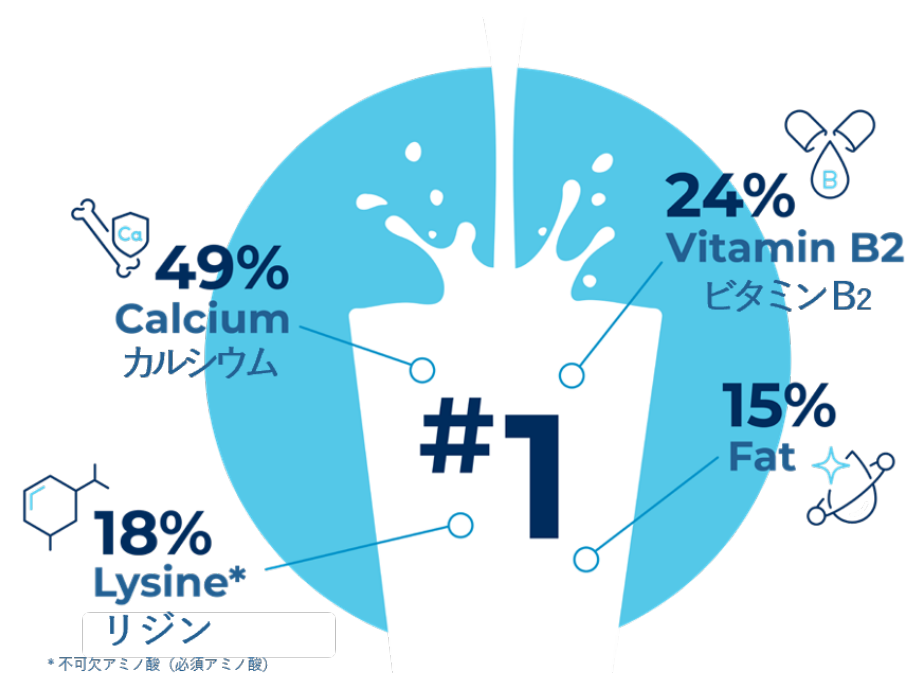
が「隠れた飢餓」
の影響を受けています

Hidden hunger, the presence of multiple micronutrient deficiencies, is often accompanied by overweight and obesity

Passarelli et al. (2016) Micronutrient Inadequacies and Hidden Hunger. [Global Health](#).

牛乳乳製品は、全年齢層にとっての栄養源

The Food and Agriculture Organization (FAO) recommends milk as part of diverse, healthy diets to improve nutrition and health³



Smith NW, et al. 2022. Modeling the Contribution of Milk to Global Nutrition. *Front Nutr.*

牛乳乳製品は手頃な価格で栄養を摂れる



牛乳乳製品を含む適正な食事

動物由来食品を含まない
栄養的に適正な食事のコストは

35-45%

割高

になります

*Dairy accounts for a
significant portion of
nutrient requirements
at a lower cost*

酪農乳業は影響力がある

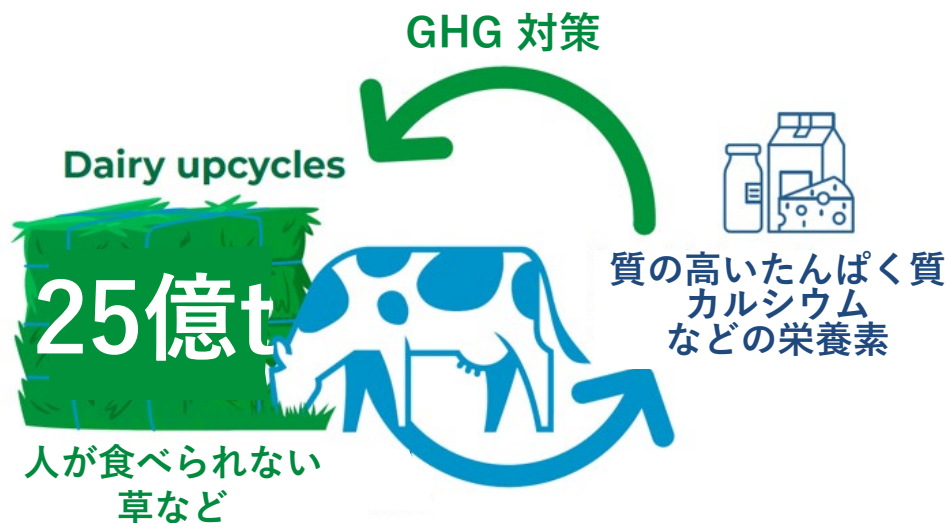
According to FAO, dairy is
the largest agricultural
commodity by value,
third by volume⁵



10 億人
が直接/間接的に
酪農乳業の仕事によって
支えられています

FAO, 2016, The State of the World's Dairy Resources. Elaborated from FAOSTAT and the World Bank Development Indicators Database.

酪農乳業は持続可能な選択肢



酪農場のGHG排出強度は
2000～2022年の間に 24%減少



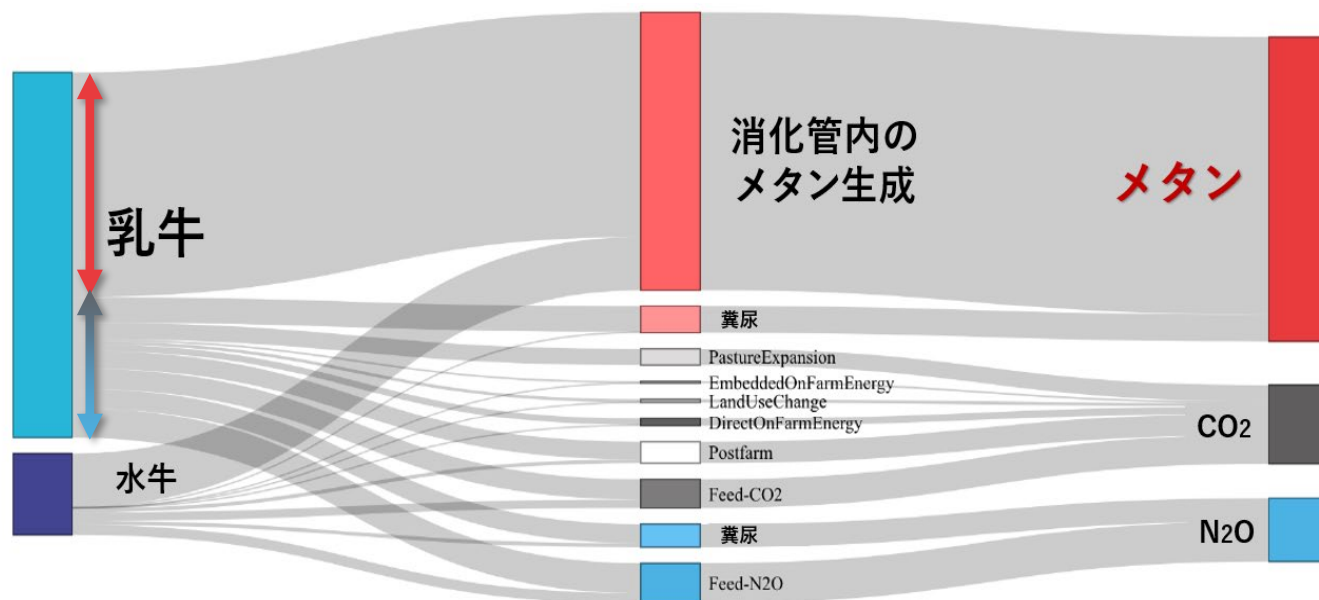


温室効果ガス (GHG) とメタンの排出削減

2015年 COP21 「**パリ協定**」 気温上昇 「**2.0°C未満**」

2015年 国連総会 「**SDGs**」 「13 **気候変動対策**」

<1.5°Cに抑える
GHG 排出を半減 (~2030年)

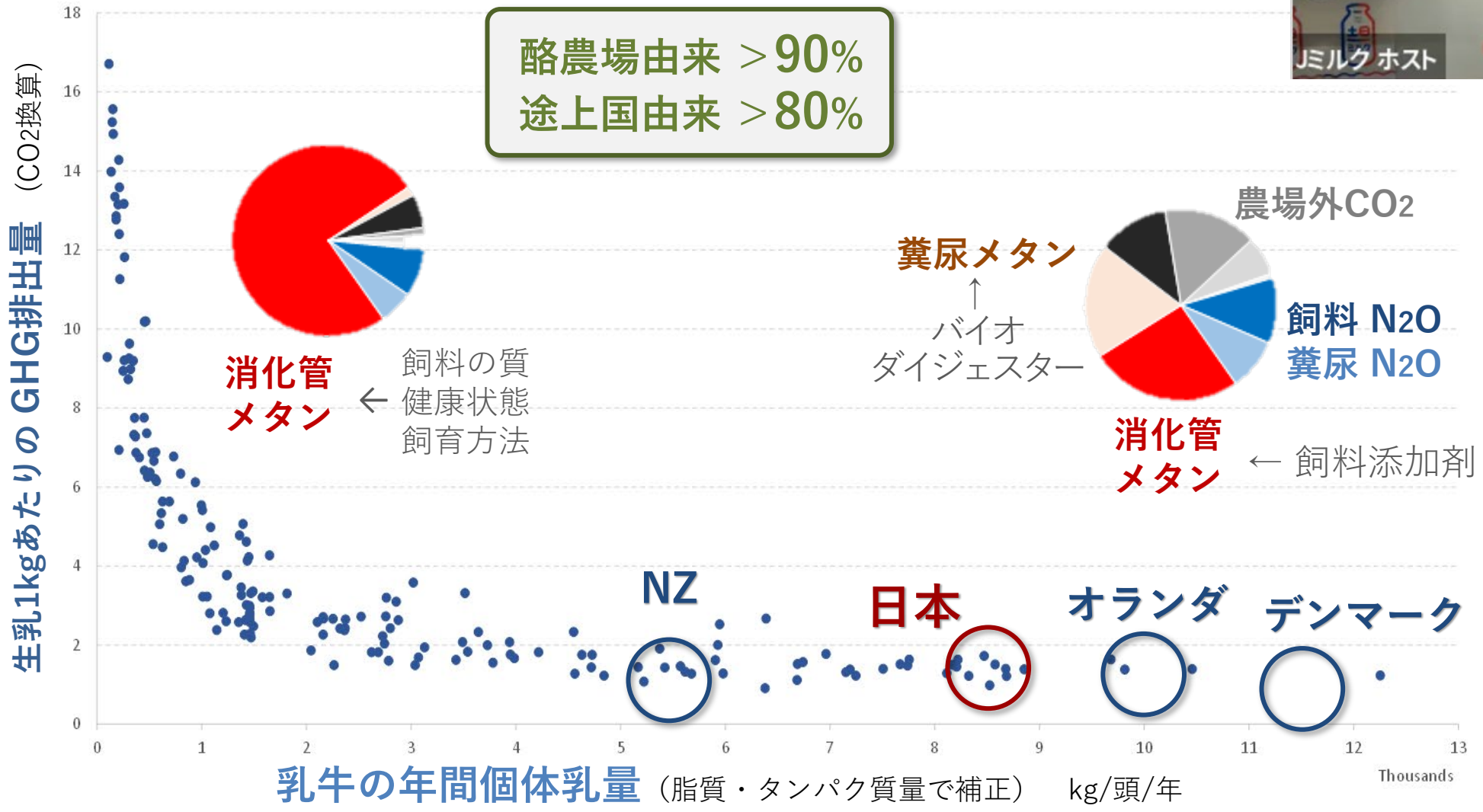


↑
GDP + 世界の酪農乳業界

削減の取組
途上国の酪農を支援
栄養健康価値の発信

酪農乳業：世界の総排出量の2%

生乳の生産性とGHGの排出量・由来



Source: FAO GLEAM3, unpublished 2020 data

酪農先進国での「持続可能性」取り組み

アーラ・フーズ社 (デンマーク)

FarmAhead™ Check + FarmAhead™ Incentive

8,000以上の酪農場、環境・気候関連の行動の200以上のデータを報告
酪農家が内容に応じたインセンティブを得る

ロイヤル・フリースランドカンピーナ社 (オランダ)

Focus Planet プログラム

気候などの9項目の持続可能性指標を報告
酪農家が内容に応じたインセンティブを得る

フォンテラ社 (ニュージーランド)

Emissions Excellence プログラム

GHG排出削減に関する達成度により、乳価上乘せのボーナス





「持続可能性」で日本に期待すること

気候変動対策

Jミルクのマテリアリティの取組を軸に

メタン削減の方策

新技術

飼料添加剤 (ボベア、カギケノリ)、牛マスク、ワクチン

消費者を不安にさせないコミュニケーション

飼料効率、糞尿管理、炭素市場参加

酪農家を支援

利点がある/収益を損なわない

生産性向上/コスト削減につながる仕組み

資金提供モデルが必要

What This Means for Japan

- Japan is a key contributor to the global dairy sector through GDP, DSF, IDF
- DSF Materiality Analysis provides clear priorities for Japan
- Collaboration across the supply chain is essential (farmers, processors, government, customers)
- A holistic approach is needed: climate + profitability + social license
- Priority opportunities: feed, manure, carbon markets, technology, metrics





「持続可能性」で日本に期待すること

バリューチェーン全体での協力を深める

酪農と乳業が一体構造でない日本では特に
酪農家への尊重と支援

関係者全員を一堂に集めて議論 (GDPの基本手段)

コミュニケーションの一体化

「酪農乳業や乳の価値・魅力」の
統合されたメッセージを関係者が一貫して発信

法的規制と自主基準

柔軟性に欠ける政策より自主的基準を作る方が好ましい





ムーア氏講演の動画配信（字幕付）

vimeo Search all of Vimeo Pricing Log in

GLOBAL DAIRY PLATFORM

Dairy Nourishes a Healthy, Sustainable World

Donald Moore
Executive Director, Global Dairy Platform

みなさま、こんにちは。招待してくれたJミルク、そして渡辺さんに感謝します。
今日の会議に参加して話をすることは、本当に嬉しく、光栄です。
日本を訪れるのは50回目ですので、節目のような気がします。
本日の内容をお楽しみいただければ幸いです。

2025年8月27日開催 Jミルク会員・関係者限定オンラインセミナー（国際情報交換会）「“サステナ”で変わる世界の酪農乳業」 講師：ドナルド・ムーア氏（GDP専務理事）

Comments Newest

7 days ago

